

令和3年5月28日

令和3年度 学校経営方針（学校経営計画）

杉並区立向陽中学校

校長 中谷 愛

キーワード：健康推進、「よく考える人」の育成、地域との双方向性

【学習環境の基盤の構築】

- ① 安全で衛生的な学習環境を整備し、生徒が安心して学ぶことができるようにする。
- ・密閉（換気がない）、密集（多くの人々が手の届く距離）、密接（近距離での会話や大声での発声）を避けた学習形態を工夫する。
 - ・生徒の心のケアを充実させるため、年間を通じて生徒がスクールカウンセラーに相談しやすくなるよう、相談日のスケジュールの見える化を行う。

【体「たくましい人」の推進】

- ② 生徒、職員全員が生活のリズムを保ちながら、自身の健康に留意しながら過ごせるようにする。
- ・登校時、給食前、実技学習の前後、部活動前、トイレ使用後の手洗い及び咳エチケット（マスク着用等）を徹底し、全生徒及び全教職員が習慣化する。
 - ・免疫力を高めるため、十分な睡眠、適度な運動、バランスの取れた食事をこころがけるよう全教職員が指導し、実践できるようにする。
 - ・家庭と連携し、「健康観察カード」を活用した毎朝の検温、風邪症状の確認を行う。生徒が自ら検温し、自身の毎日の健康状態を確認する行為を習慣化する。
 - ・職員も自身の健康を適切に管理するとともに、「杉並区働き方推進改革プラン推進」の一環として、各教職員の MY 健康推進 DAY（平日の一日年休取得）及び午後8時前の退勤を実施する。

【知「よく考える人」の推進】

- ③ 新学習指導要領全面実施に当たり、向陽中学び合いメソッドを踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」を進める。
- ・授業で生徒が思考することができるよう、全教員が1単位時間の授業のねらいにせまるための問いを適切につくることができるようにする。（第1段階）
 - ・授業で生徒が思考を深めることができるよう、学び合いの手法を効果的に使えるようにする。（第2段階）
 - ・授業の中で、「深い学び」を実現する。（第3段階）

④ 知識を得るだけでなく、生徒が自ら考え、課題を見出し、知識を活用しながら解決する経験を積み重ねることができるよう授業の展開を工夫する。

- ・生徒が、必然性を伴う宿題や定期考査前の学習に計画的に取り組むことができるようにする。
- ・生徒が自ら考え、課題を見出し、知識を活用しながら課題を解決する学習場面を、年間を通じて適切な時期に設定し、知識を得るだけでなく、学習への意欲を高める。
- ・「学びの教室」や「質問教室」での取り組み成果を全職員で共有し、各授業での生徒支援に生かす。（質問教室については、CAFÉ 勉と連携する）

⑤ 地域の教材（人・社会・自然）を研究して授業を行い、生徒が地域に生きていることを実感し、社会に貢献する意欲を育むことができるようにする。

- ・総合的な学習の時間で進める地域の方々と連携した授業（土曜授業等）について、教員が地域研究を行う。（内容について地域と共有する）
- ・生徒が地域に生きていることを実感し、社会に貢献する意欲を育むことができることをゴールとした授業を計画する。授業実施のねらいを事前に明確にして取り組む。また、事後の振り返りの時間も大切にすることで、生徒の学習効果を適切に把握していく。（学習効果について地域と共有する）

⑥ ICT を効果的に活用することで、生徒の思考力・判断力・表現力等を育成する。

- ・リモート空間でも、生徒が自ら調べたり、考えたり、適切に判断したりすることができる学習環境の整備を目指す。オンデマンドによる動画配信及びロイノートを活用した授業を行い、効果を検証するとともに、発信する。

【徳「思いやりのある人」の推進】

⑦ 思いやり・感謝する心を育み、「ありがとう」が響く学校にする。

- ・生徒会が作成した「いじめ0%5箇条」を、生徒及び全教職員が共通理解し、実践する。
- ・いじめが発生したときの事実確認及び管理職への報告を速やかに行う。
- ・2学期及び3学期に道徳の研究授業を行い、授業の成果と課題を協議する。

【教職員間のコミュニケーション力の向上】

⑧ 教職員間の「報告・連絡・相談」を密に行うとともに、共に支えあい、コミュニケーション力の高い集団（チーム向陽）をつくる。

- ・「報告・連絡・相談」を密に行い、共に支えあって仕事をするすることで、校務を効率的に行えるようにする。